

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

スワジランド王国

ゲゲ地域開発プログラム(SWZ-189622)



以前住んでいたコンテナの内部。火事になる前から屋根には穴が開いていて、雨漏りしていました



ADPの支援により建設された新しい家に住み始めました

チャイルドストーリー

両親と家を失った3姉妹が 再び立ち上がることができました

ゲゲ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むテムレンジちゃん(17歳)、グシニルちゃん(12歳)、シヤンダちゃん(10歳)の3姉妹は、5年前に両親が相次いで亡くなり、子どもたちだけで暮らすことになってしまいました。そのうえ2012年には、住んでいたコンテナハウスに、近所で発生した火事が燃え移って全焼し、3人の学校の制服、教科書、ノート、生活用品、服などはすべて灰になってしまいました。3人は家を失い、途方に暮れていました。

ワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録されていたシヤンダちゃんと姉たちの困難な状況を知った

ADPは、特別に予算を工面して3人に新しい家と制服を提供しました。「火事にあう前にコンテナに住んでいた時から、村の人々は私たちの貧しい生活を馬鹿にしていました。でも今ではこんな立派な家に住むことができ、もう一度制服を着て学校に通うこともできて、本当に嬉しいです。新しい家は雨漏りすることもないし、鍵もかけられます。以前では考えられないことです」と長女のテムレンジちゃんは嬉しそうに話します。

大変な困難に見舞われた3人ですが、支援を受けて今はそれぞれ、看護師、警察官、教師になるという夢を持ち、助け合って暮らしています。

経済開発プロジェクト

生計向上のための技術トレーニングを開始しました



縫製（2事業）、野菜栽培（4事業）、牛の飼育（2事業）が始まりました

2014年度は、地域の人々、特に女性の収入向上につながるよう、自治体から講師の派遣などの協力を得て、縫製や野菜の栽培、牛の飼育など様々な事業が始まりました。これらはまだ開始段階ですが、トレーニングを通じて学びを深め、技術力が向上してきました。一つの縫製事業では、作った

衣類を販売することができるようになり、メンバーが収入を得はじめています。また、野菜栽培事業では小規模灌がいをはじめています。事業によって栽培された農産物は、国営の流通機関を通じて販売し、収益をメンバーで分け合うことができます。



縫製事業で服を製作する支援地域の女性



野菜を栽培するため畑を耕す女性たち



地域の女性のストーリー

縫製ビジネスの起業を目指しています

ムバリさんは2人の子供を持つ母親です。高校生生の時に両親を亡くし、高校中退を余儀なくされてから、作業服を縫製する会社で働いていましたが、リストラで解雇されてしまいました。その後お菓子やケーキを作って販売しながら、パートタイムで働く夫とともに生計を立ててきました。

数年前にADPの貯蓄グループに参加するようになり、ADPのスタッフから今後どのような仕事をしたいか聞かれたムバリさんは、洋服を作る仕事がしたいと答えました。現在はADPの縫製のトレーニングに参加し、将来的にはやる気のある仲間の女性たちとグループを作って縫製の仕事をしたいと考えています。「縫製の仕事によって、子どもたちの教育費や食費が賄えるようになることを願っています。再び将来に夢が持てるように支援していただき、心から感謝しています。」ムバリさんは、子どもたちの学校の制服を作るという夢を持って、トレーニングに励んでいます。



ADPの縫製のトレーニングに参加しているムバリさん（35歳）

保健・栄養プロジェクト

子どもたちの健康状態の改善に向けて取り組んでいます



80%の家庭にトイレができました

子どもたちが健康を保つためには、しっかりと栄養をとり、安全な水を飲み、家庭で衛生習慣を身につけ、必要に応じて適切な医療サービスを受けることが不可欠です。2014年度は、各家庭に換気口の付いたトイレを作り、衛生習慣についてのトレーニングを強化しました。今や地域の80%の家庭にトイ

レがあります。また、地域保健員の協力を得て、6つの小学校に保健クラブができました。保健クラブで公衆保健に関する知識を学んだ子どもたちは、同級生や家族にも、衛生的な環境や習慣の大切さを伝えることができるようになりました。

チャイルドストーリー

家に新しいトイレができました

ググちゃんの家には以前、古いトイレがありました。豪雨で流されてしまいました。以来、ググちゃんと家族は草むらで用を足さなければならず、人目につくので早朝や夜間にしか安心して用を足すことができませんでした。また、用を足す前に穴を掘っていなかったため、雨期には汚物が川に流れ、非常に不衛生でした。

そのような状況を改善するため、ググちゃんの両親はADPの衛生に関する研修に参加し、トイレを作るのに必要な資材の提供を受けました。適切なトイレの建て方も学び、新しい衛生的なトイレが完成しました。「新しいトイレは気持ちよく使えます。鍵もかかり、人の視線を気にせずに済みます」とググちゃんは嬉しそうに話してくれました。



新しいトイレの前に立つググちゃん

訪問保健カウンセリングに取り組んでいます

妊産婦や乳幼児のいる **101** 世帯が適切なカウンセリングを受けました

ADPでは、地域保健員が妊産婦や乳幼児のいる家庭を訪問し、適時適切なカウンセリングを積極的に実施しています。2014年度は、48人の地域保健員が子どもたちの栄養に関する研修を受け、101世帯を訪問し、カウンセリングにあたりました。この取り組みを通じて、25人の妊産婦が産前健診を受けるようになりました。また、17人が地域の保健センターなど設備の整った施設で出産することができました。さらに、生後6カ月未満の乳児をもつ母親38人が、訪問保健カウンセリングを受けて、完全母乳育児を行っています。一方、自宅出産の慣習も根強く残っているため、今後の一層の取り組みが求められています。



地域保健員（右）から訪問保健カウンセリングを受ける母親

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているかの確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。地域の青少年に対するライフ・スキル*の訓練を実施し、参加した125人の子どもたちが暴力や虐待に対し、自らの意見をもって行動を決めることができるようになりました。

※ライフ・スキル

問題解決法、コミュニケーション・スキル、対人関係、チームワーク、決断の仕方、計画性など、生きていく上で必要な知識・技術。



チャイルド・スポンサーへの手紙を書く子どもたち

会計報告

SWZ-189622

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

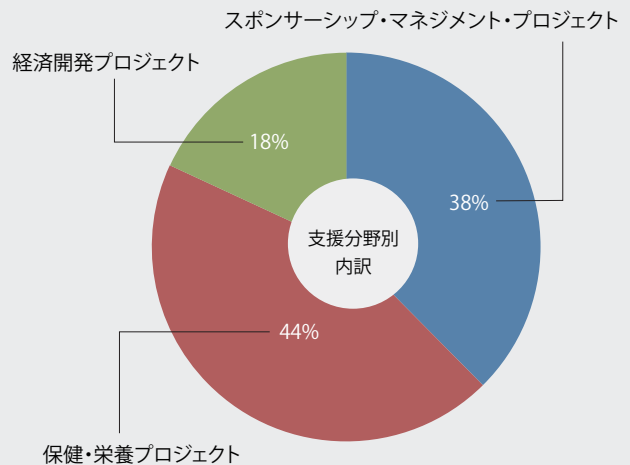
プログラム支援額 (単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	51,626,703
当期支援額	51,626,703
前期繰越金	9,623,903
プログラム支援額合計	61,250,606

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	24,024,989
保健・栄養プロジェクト	28,331,510
経済開発プロジェクト	11,568,051

プログラム支出額合計	63,924,550
次期繰越額	-2,673,944



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp